

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

ナマコはなぜ減った

ば、そう邪険にもできに件って、舞鶴湾に流が多かったのに、最近で、生活排水は川に垂れ流しされ、ほとんど分解されずに海に流れ込んでいました。ナマコは生活排水に含まれる有機物を餌(えさ)に大増殖していたのではないのでしょうか。よく、昔はきれいでナマコなんかもいっぱい捕れたって話が出ることはありませんが、事実は逆で、昔は汚かったからたくさんとれたのかも知れません。

「舞鶴湾のナマコはなぜ減ったんでしょう」

舞鶴湾のナマコが豊

す透明度は、東湾奥ではかつて2メートル以上の日

はかつて2メートル以上の日

修士論文の締め切りを目前に控えた院生の1くんが、データを片手にやってきました。舞鶴湾で観測された水質や漁獲量、生物調査のデータを過去に遡(さかのぼ)れる限り集めて、昔と今を比較してみようというのが1くんのテーマ。

舞鶴湾のナマコが豊かになりました。舞鶴湾のナマコが豊かになったのは1970年代。およそ年間150トくらいが漁獲されていたのですが、80年代半ばから急減して現在50トを下回っています。一方、80年代以降、舞鶴市の下水処理面積は急激に拡大。80年にわずか70トだったのが90年には6倍になり、最大の有機物排出源だった東舞鶴の市街地はほぼ水洗化されました。

水質関係のデータをみると、下水道の普及

普通なら「それを考えるのが研究やないか」と、簡単なアドバイスカ適切な教科書を渡して追い払うのですが、締め切り目前ともなれ



このところ非常に高価になった赤ナマコ

は、下手すると赤潮を引き起こしかねません。下水道と内湾環境の関係は一筋縄ではいいかないようです。